

インド人も酔うときは、酔う！ 知られざるインド酒文化の一端 ビール、ウィスキーのみならずワインも人気

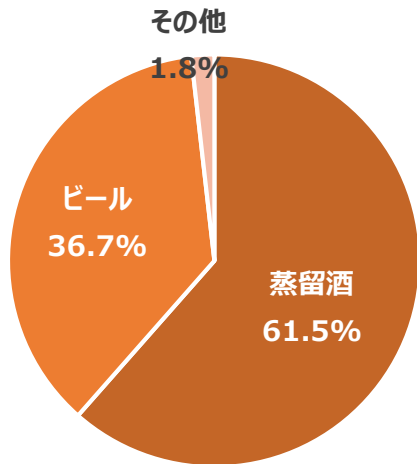
メイド・イン・インド ～インドの「おさけ」事情～

▶ 巨大アルコール市場

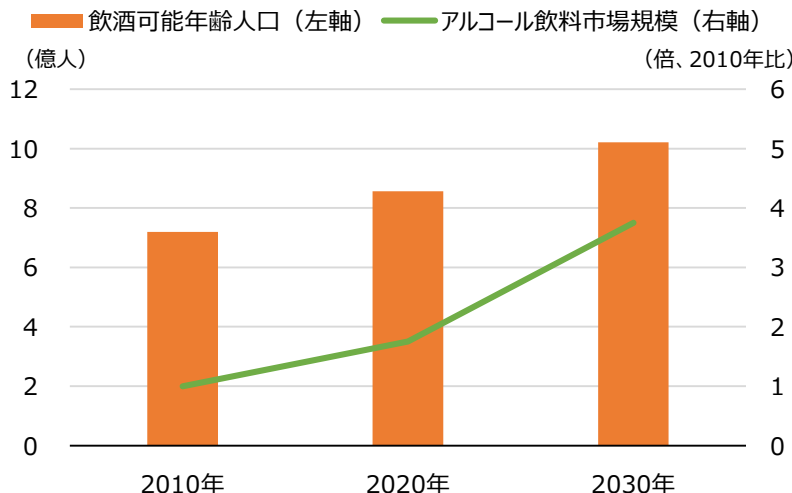
今や世界最大の人口を誇るインドですが、宗教・習慣といった観点から、お酒事情について情報を掴みづらい側面があるようです。意外にも、インドはアルコール飲料大国です。日本国内のインド料理店等でも、インド・ビールやインド・ワインを飲むことができるため、ビールやワインが日常的に飲まれているのかと想像しますが、最も消費されているのはウィスキー等の蒸留酒です。インドは世界最大の蒸留酒消費国であり、数量ベースで世界の半分程度の市場シェアを有しています。

一方、インドの人口増に伴う飲酒可能年齢人口の増加（州により異なり、18歳からであれば25歳からでも、禁酒州もあり）や経済成長に伴う中間所得層の急拡大を背景にビールやワインの消費も拡大傾向にあります。市場の急拡大を見越し、日本の麒麟ホールディングスによるインドのクラフト・ビール・メーカーへの出資も進んでいます。

インドのアルコール種別市場シェア
(2020年)



インドのアルコール飲料市場規模
(推計値)



▶ アルコールに対する規制は強いお国柄、インド訪問時には要注意！

インド国内でのアルコール市場は力強く成長しているものの、国全体としてはアルコール飲料に対する寛容度が低いのがインド、と評されます。

人口の約8割を占めるヒンドゥー教徒にとって飲酒は「五大罪」のひとつとされており、そもそもアルコール飲料に対して寛容とは言えない風潮が根付いているようです。アルコール飲料の広告は禁止されているほか、摂取を禁じる「禁酒日」が存在します。アルコール消費量が多く、その量も急拡大しているインドを訪れる際には、インドにおけるアルコール飲料周辺の立ち振る舞い等、事前にしっかりと下調べをしておくことを、お勧めします。

出所：各種資料を基にパインブリッジ・インベストメンツ作成。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会